

なら医療DX通信

2025
MAY
Vol.1

クラウド型音声入力システム導入による カルテ作成業務の改善

1. はじめに

近年、医療現場では働き方改革の一環としてペーパーレス化や業務効率化が強く求められています。奈良医大ではこの度、クラウド型の音声入力システムを電子カルテに連携し、医療従事者カルテ作成業務の負担軽減に成功しました。導入にあたって直面したハードル、セキュリティ対策、運用後の効果を整理し、近隣の病院や医療、介護施設の皆様に共有します。

2. 導入前の課題

- ◆未経験のクラウド連携: 従来、当院では全て院内サーバ上で完結するシステムしか運用しておらず、クラウド型サービスと電子カルテを接続するのは初の試みでした。
- ◆セキュリティへの懸念: 患者情報をクラウド上に送信・保存することへのリスク評価と、既存のネットワーク構成への影響が大きな検討ポイントでした。

3. システム概要とネットワーク構成

◆システム構成

- 。院内: 電子カルテクライアント端末から音声入力クライアントソフトを起動
- 。ネットワーク: 院内専用回線を経由してVPN経由でクラウドサーバと通信
- 。クラウド: 国内データセンター内に設置された認識エンジン・DBで音声データをテキスト化・保存

◆データ管理

- 。音声メモは自動で3日後に削除(CSV出力等での長期保管機能は現在検討中)
- 。患者IDや録音日時など必要最小限のメタデータのみクラウドへ転送

4. セキュリティ対策

◆専用回線の活用

- 。既存の電子カルテ保守用回線を流用し、インターネット直結を回避

◆国内データセンターの利用

- 。法令準拠かつ第三者認証を取得した施設内でデータを厳重管理

5. 運用後の効果と働き方改革への貢献

◆カルテ作成時間の短縮

- 。音声メモ入力と音声直接入力機能で、入力時間を削減
- 。医療従事者が患者と向き合う時間の増加

◆ドキュメント品質の安定化

- 。入力ミスの削減、過去メモの再利用による記載精度向上

◆医師／スタッフの負担軽減

- 。キーボード操作を最小限に抑制し、複数端末からメモ共有が可能に
- 。初心者にも優しいユーザーインターフェースを採用

◆働き方改革への寄与

- 。残業時間の抑制、夜間当直後のカルテ入力ストレス軽減
- 。医師の「書類作業→診療」への回帰を促進

6. まとめ

この事業は、人事課、医療情報部ならびに当講座スタッフの協力により実施されたものです。

クラウド型音声入力システムの導入は、多くのセキュリティ検討と段階的な運用検証を経て実現しました。

近隣の皆様におかれましても、本事例を参考に、診療業務の効率化と働き方改革の一助としてご検討いただければ幸いです。

*さらに深く知りたい方は、

奈良県立医科大学 戦略的医療情報連携推進講座 までお問い合わせください。

Mail : spmic2024nmu@naramed-u.ac.jp



Dr.タマモンの 今月のひとこと

DXはDigital Transformationの略です。これは単なる現場のデジタル化を指す言葉ではなく、デジタルの力を利用した、組織の「文化」や「人間の意識」までも変革する試みを意味しています。

でも、実際は「だいたい(D)分かんもの(X)」だったりもしますね。はじめは、みんな、そんなもんですよね。

